

大野新道

○江差山道に連結○

- 明治 20 年(1887)、大野新道工事着手
- 同 22 年、竣工 (直線 12.5 ㌾)

道路へ土盛りする土は、一本木用水と西桔梗、大中山などから通した幾本かの運河を船で運び、馬もっこで配られた。

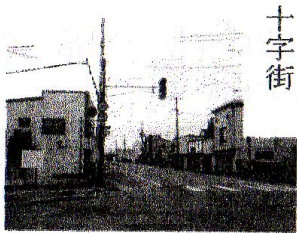
亀田 (新道入口) から大野十字街まで旧道と比べ、約 4 ㌾短縮された。しかし秋から翌年の春までは路面が弱く、旧道を通ることが多かった。

◎函館から大野を挟んで江差まで繋がり近代的な道路が完成した。

「おおの郷土史かるた」

- ㊦ ぬかるみを一直線に函館へ

- 昭和 28 年(1953)、二級国道に指定
- 同 33 年、国道の舗装工事が大野十字街から始まる。
- 同 45 年、国道 227 号全線舗装完了
- 同 53 年、函館・江差間全線の舗装改良工事完了



十字街

○大野バイパス開通○

- 同 54 年、バイパス工事着手
 - 同 62 年、バイパス二車線開通
 - 平成 3 年 (1991)、バイパス四車線開通
- 大野中心街を通る大型車が激減し騒音が解消された。

江差山道

◇山道開削に挑む◇

○安政元年(1854)、大悲庵僧侶道仙と木間内の旅籠屋主人麓長吉によって山道の開削始まる。

○安政 5 年、鈴鹿甚右衛門、長坂長兵衛によって毛無山山道開削に挑む。

○明治 12 年(1879)、ブルックスが江差・大野間「道路開削急務」と報告



江差山道始点

○同 16 年、函館県が山道調査

石版画 (文化財指定)

○同 18 年、函館県が山道工事に着手

○同 19 年、道庁により山道竣工

◇馬車・バス開通◇

○同 20 年、函館・江差間に郵便馬車開業。司法大臣山田顕義が山道視察

○同 35 年、本郷駅・江差間で客馬車営業
大正 9 年(1920)、フォード車運行

◇トンネル完成◇

○同 13 年、中山トンネル開通

○昭和 10 年(1935)、大型バス運行

○同 27 年、大野村は大野新道と山道を連結し、国道昇格運動を起す。

○同 41 年、新中山トンネル開通

(江差山道の続き)

○同 42 年、国道 227 号の山道大野町区間改良工事始まる (同 53 年完成)。

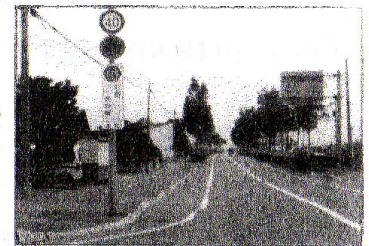
「おおの郷土史かるた」

- ㊦ 岩山が旅路遮る旧街道
- ㊦ 客馬車がラッパ鳴らして江差まで
- ㊦ 山道に執念もやした道仙和尚

「大野村絵図」(文化財指定)に載るその他の古い道路
古七重道

本郷村と大野村の境から七重村へ向かう道路である。

(現在のガソリンスタンドから国道 227 号を横切り国道 5 号に至る道道 676 号)



鶴之道

大野村十字街から現在の国道 227 号を横切り鶴野への道路で七飯町・七飯駅へ抜ける。

鈴ヶ道 (筋川道)

筋川道は、旧道下町と鍛冶在所(今の南大野)の境から大野新道清水川交差点を結ぶ道路である。現在は鈴ヶ道と称している。